

## 病院のお仕事いろいろ



### 病院の 感染対策に 取り組む

感染管理認定看護師  
(感染制御部)

西野 さおり(にしの さおり)さん  
看護師

西野看護師が感染管理に初めて取り組んだのは、所属部署の感染管理の担当者になった時でした。勉強を重ねるうちに、採用時より配属された手術部、集学治療病棟、内科病棟で厳しい感染管理を行われていたことを実感したそうです。特に集学治療病棟での所属時には、SARS(重症急性呼吸器症候群)の流行があり、感染症の恐ろしさを身をもって感じました。平成27年の感染管理認定看護師の資格取得後は、病院全体に対して感染対策を担うことになり、より一層、仕事に対して責任を感じています。看護師だけでなく、全スタッフに指導を行う必要があるため、いかに現場に活かせるかを考えています。また、専従の認定看護師は2名であるため、細部まで十分に目が行き届かないことが課題だそうです。今後も各部署に中堅クラスの感染管理の担当者を育成することで、感染対策に対する意識の底上げを図ることを目標としています。専門的な知識はもちろん、指導する立場として現場のスタッフとの人間関係はとても重要です。当院での経験が長く、院内での良好な関係が築けているからこそ、協力して感染対策を行えるとお話いただきました。



### 患者さんとの 共感力を 大切に

糖尿病看護認定看護師  
(内科病棟)

大和 光(やまと ひかり)さん  
看護師

大和看護師は約10年前に日本糖尿病療養指導士の資格を取得し、認定看護師を取得する前からフットケア外来などで糖尿病患者さんと接していました。糖尿病は合併症によって足の壊疽や失明を引き起こします。「今までなにも症状が出ていなかったのに…」と苦しむ患者さんに対して、もっと早く定期受診や療養の継続などの合併症予防について伝えられていたら…と悔しく感じたそうです。フットケア外来では、足の病変の観察や足のケアなど糖尿病性合併症の予防を行っています。その際に患者さんからいろいろなお話を聞くことで、糖尿病について理解を深めることができるそうです。また、患者さんが日常生活や食事に疑問を持った“タイミング”を逃さずに指導を行うことが大切だと考えています。院内外の糖尿病教室や患者会などにも積極的に参加し、患者さんの気持ちを理解する努力を行っています。現在、大和看護師は内科病棟で入院患者さんへの糖尿病指導を行っています。が、今後は「糖尿病を持病に持った他病棟や外来の多くの患者さんに対し部署を超えて療養指導や退院時指導を行っていけたら」との意気込みをお話いただきました。